

第3章 都市の将来目標の設定

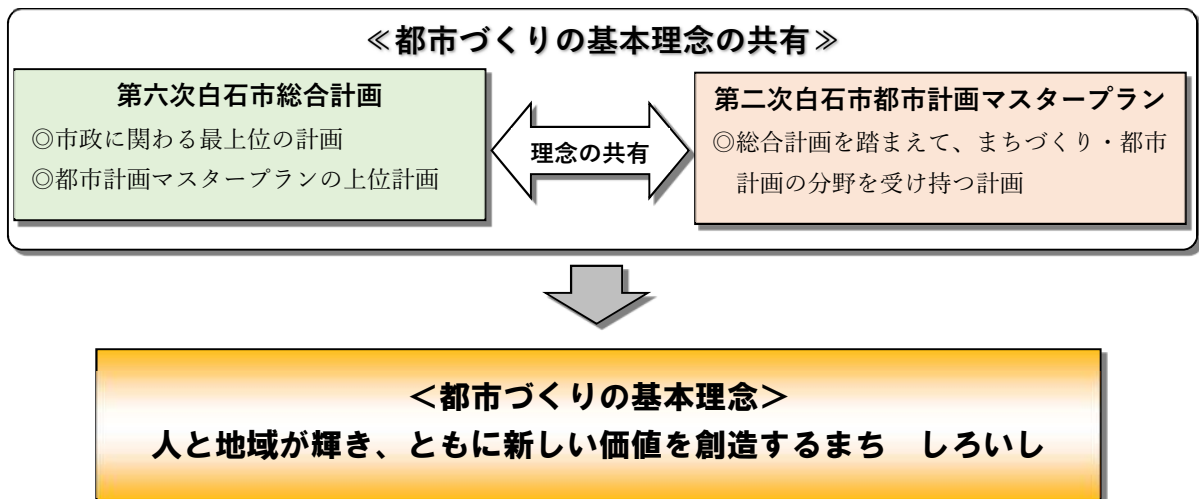
本プランの将来目標として、概ね20年後の都市の将来像を描きます。

概ね20年後の都市の将来像

- 都市づくりの目標・テーマ
 - ・目指すべき都市の姿、都市づくりの理念・目標・方向性などの理念などを文言で表現します。
- 将来フレーム
 - ・都市や市街地の規模・枠組みを定量的に表現します。
 - ・人口、世帯、産業、土地利用の項目について、将来のフレームを定めます。
- 将来都市構造
 - ・将来の都市の骨格をなす姿を概念図で表現します。
 - ・「基本ゾーニング」(面)、「骨格となる都市軸」(線)、「都市の拠点」(点)の配置、機能の位置づけを定めます。

3-1 都市づくりの基本理念

本市の最上位計画である総合計画において定められた白石市が目指すべき姿である『人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし』を共有していくものとします。



3-2 都市づくりの目標

本プランが目指す都市づくりの6つの目標を以下に示します。

都市構造

集約型の都市づくりを目指します

- 環境保全を重視した集約型の都市づくり
- 都市機能がコンパクトに集積し、機能的で利便性の高い中心市街地づくり
- 機能、役割を明確にし、現在のニーズに対応した道路網ネットワークづくり

住環境

安全で、安心して暮らせる生活空間づくりを目指します

- 多様なライフスタイルにあった住環境づくり
- 防犯・防災に配慮した住環境づくり
- 地域コミュニティの維持

産業経済

産業の活力の再生を支援する都市づくりを目指します

- 住民の多様なニーズに対応した魅力と活力のある中心商業地づくり
- 地域特有の資源を活かした商業地づくり
- 良好な広域交通条件を活かした工業地づくり
- 既存の集積を活かした工業地づくり
- 市中心部とのアクセス性に優れた交通結節点周辺のにぎわい拠点づくり

自然環境

豊かな自然環境の保全、自然と共生する生活環境の維持を目指します

- 自然環境が身近に感じることで自然と共生する都市づくり
- 優良な農業地を保全する都市づくり
- 生活に潤いを与える水辺・緑の空間の創出
- 居住・生活環境と自然環境が共生する地域づくり

観光・歴史・景観

魅力と風格を高める都市づくりを目指します

- 歴史的な資産を活用した都市景観づくり
- 広域交流を活性化させる観光都市づくり
- 伝統・文化を後世に継承する都市づくり

防災

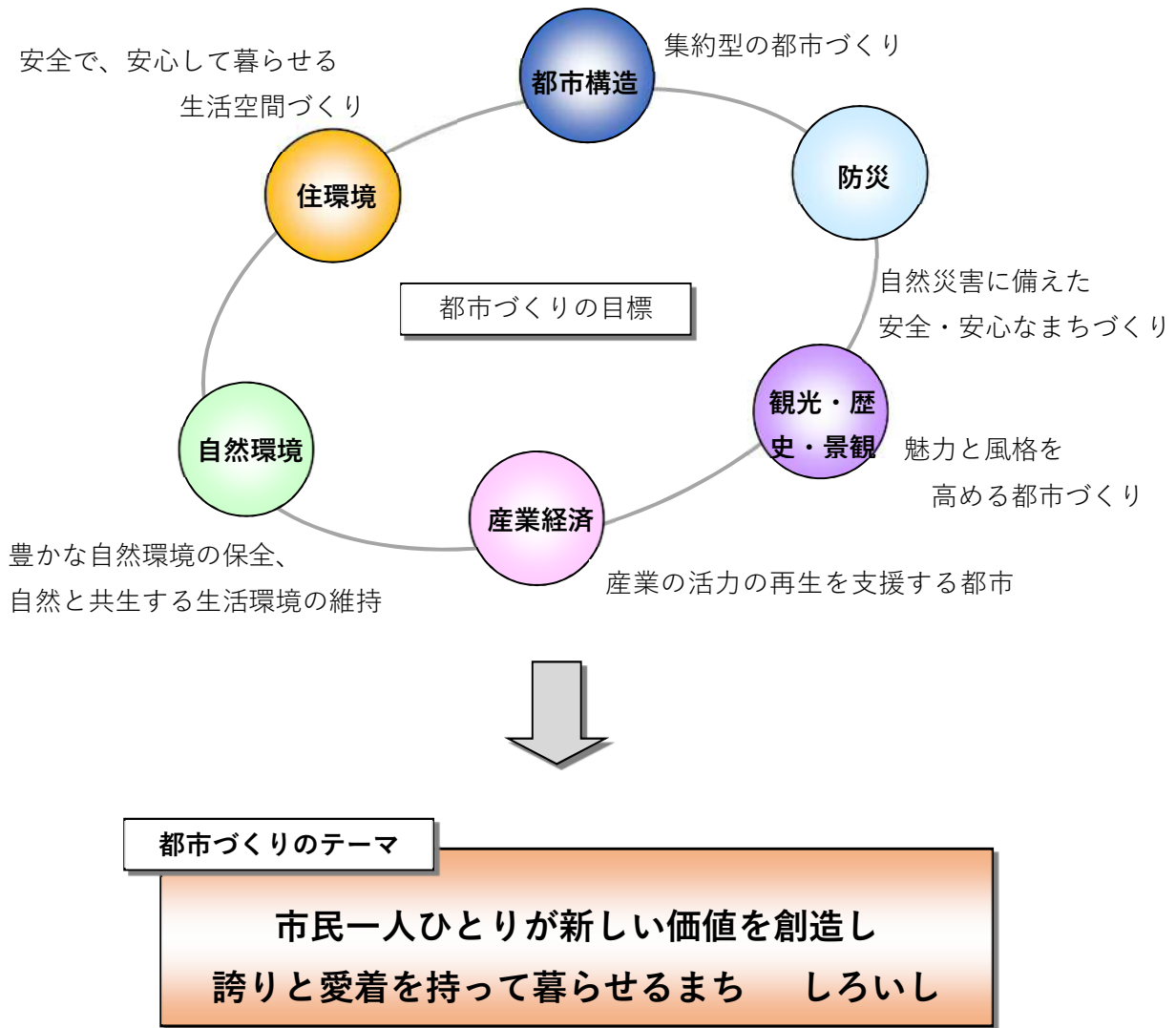
自然災害に備えた安全・安心なまちづくりを目指します

- 市街地における災害に強いまちづくり
- 防災・減災に向けた計画的な取り組みの推進
- 災害などの緊急時における地域の防災力の向上

3-3 都市づくりのテーマ

本市の都市づくりのテーマは、本プランの都市づくりの理念、都市づくりの目標を踏まえて、『市民一人ひとりが新しい価値を創造し 誇りと愛着を持って暮らせるまち しろいし』と設定します。

なお、テーマの設定にあたっては、市民懇談会と庁内策定委員会での検討を経て定めています。



3-4 将来都市構造

3-4-1 基本ゾーニング

<基本的な考え方>

土地利用ゾーニングの基本的な考え方は、「都市的な土地利用を促進する区域」と農業集落地などに位置する集落居住の「自然環境と共生する区域」、及び農地・森林・水辺などの「自然環境を維持・保全する区域」の区分を明確にします。

(1) 都市的土地利用ゾーン：都市的な土地利用を促進する区域

①市街地ゾーン

現行用途地域内、用途地域外では商業の集積がみられる国道4号沿道、工業の集積を図る白石IC、(仮称)白石中央スマートインターチェンジ(以下「(仮称)白石中央SIC」という。)周辺や大鷹沢工業団地周辺を市街地としての土地利用を図る市街地ゾーンとして位置づけます。

住宅地・商業地・工業地などの都市的な土地利用を適切に誘導し、コンパクトで賑わいがあり、自然環境にもやさしい市街地を形成します。

(2) 農地と共生する区域

①農地共生ゾーン

用途地域外の都市計画区域内の農地、都市計画区域外に点在する集落地や農地を位置づけます。農地と共生する集落居住の空間を維持し、農業集落のコミュニティの継続を図り、永続的な集落地や、本市の主要産業である農業を支える農地を貴重な財産として、保全・継承に努めることで優良な農地を形成します。

(3) 自然環境を維持・保全する区域

①自然公園保全ゾーン

都市計画区域外の蔵王国定公園、蔵王高原県立自然公園を含む自然環境保全地域を位置づけます。豊かな自然地を保全するとともに、生物の多様性の確保に寄与することに努め、優れた自然の風景地を形成します。

②自然環境ゾーン

上記以外の都市計画区域外を位置づけます。豊かな自然地を保全することに努め、豊かな自然環境を形成します。

3-4-2 骨格となる都市軸

<基本的な考え方>

主要都市を結ぶ「広域連携軸」、主に県南地域を結ぶ「地域連携軸」の区分を明確にします。さらに、本市の特徴である水辺環境の軸の区分を明確にします。

(1) 広域連携軸

南北軸として、東北縦貫自動車道、国道4号、JR東北新幹線、JR東北本線、東西軸として国道113号を位置づけます。本市と県都仙台都市圏や県北や東北地方の主要都市、さらには首都圏な

どを結ぶ、交通ネットワーク軸を形成します。

(2) 地域連携軸

南北軸として(主)白石国見線、東西軸として国道457号、(主)南蔵王七ヶ宿線、(主)白石丸森線、(一)南蔵王白石線、(一)越河角田線を位置づけます。(※(主):主要地方道、(一)一般県道)広域連携軸を補完し、本市の主要拠点間や県南地域の都市を結ぶ交通ネットワーク軸を形成します。

(3) 水辺環境連携軸

白石川を位置づけます。本市の水辺環境の持つ機能を効果的に発揮させるためのネットワークの軸を形成します。

(4) 親水軸

市街地を流れる斎川を位置づけます。都市拠点や緑の拠点の連携を図り、潤いを感じることのできる身近な親水空間を形成します。

3-4-3 都市拠点

(1) 都市機能拠点

市役所などの行政サービス施設、白石中学校・白石第二小学校などの文教施設、中心商店街などが立地する白石駅周辺を位置づけます。生活、産業経済、行政、交流などの本市における都市活動の中心となる機能が集約された都市拠点を形成します。

(2) 広域機能拠点

ホワイトキューブ(文化体育活動センター)の文化体育施設、宿泊施設、商業施設などが立地する白石蔵王駅周辺を位置づけます。各種交通機関の結節機能の充実を図るとともに、本市の玄関口にふさわしい機能が集約された拠点を形成します。

(3) 地域交通拠点

白石駅周辺を位置づけます。本市の通勤・通学などの地域生活を支える交通機能の充実を図り、地域交流の玄関口を担う拠点を形成します。

(4) 広域流通拠点

東北縦貫自動車道の白石ICや(仮称)白石中央SIC周辺を位置づけます。広域へのアクセス性による立地ポテンシャルを活かした土地利用を図り、本市の広域の流通を担う拠点を形成します。

(5) 交流拠点

白石城、武家屋敷などの歴史的観光施設周辺と小原温泉、鎌先温泉などの温泉郷を位置づけます。歴史文化資源、温泉資源を活用して市内外から訪れる人々をもてなす、人と地域資源がふれあう交流の拠点を形成します。

(6) レクリエーション拠点

白石川緑地、スパッシュランドパーク、材木岩公園、みやぎ蔵王白石スキー場、南蔵王色彩の森、国立南蔵王青少年野営場、大萩山公園を位置づけます。豊かな自然環境を保全しながら、自然と一体となった余暇利用空間の拠点を形成します。

(7) 賑わい交流拠点

「しろいし SunPark」を位置づけます。

農商工連携を核とした賑わい交流拠点「しろいし SunPark」内の各施設相互の密接な連携と相乗効果で、一層の賑わい創出と雇用創出、子育て支援強化を図り、宮城県南地域の核となる一大交流拠点として、交流人口の拡大を促しながら、仕事と生活の調和のとれた地域全体としての魅力向上や定住促進・市民所得向上などの実現を図ります。

(8) 地域生活拠点

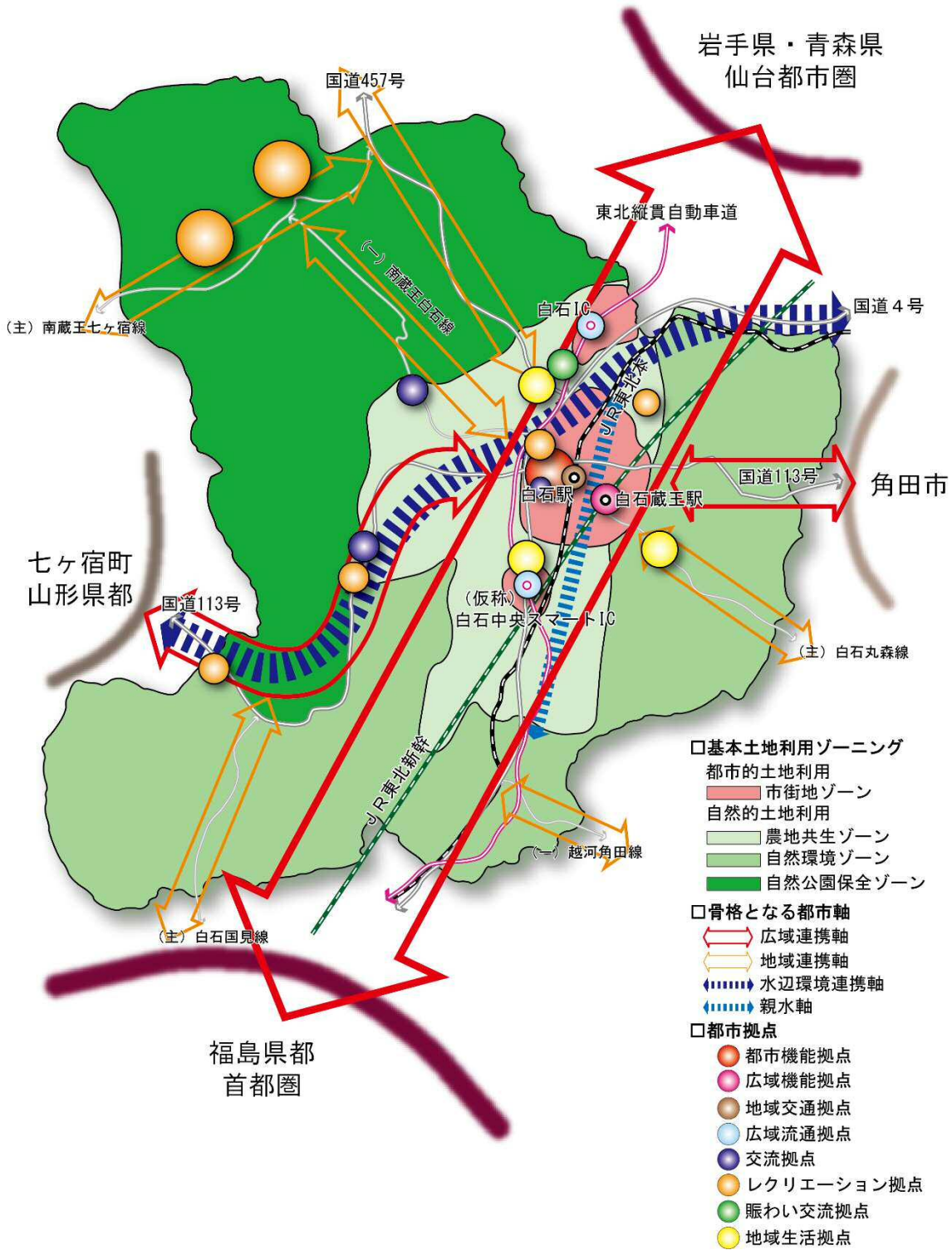
集落のコミュニティを維持するため、用途地域を含む大鷹沢地域、福岡地域、大平地域の中心地となる公民館など周辺を位置づけます。

各集落のコミュニティを維持し、住み慣れたところに暮らし続けられるよう、住民の生活を支える生活拠点を形成するとともに、市の中心部や周辺集落と連絡する公共交通の確保を図ります。



しろいし SunPark

図表 将来都市構造



3-5 将来フレーム

本プランでは、人口、世帯、産業経済、土地利用について、以下のように将来のフレームを定めます。

将来フレーム				
事項		基準年次 (2015年)	令和12年 (2030年)	令和22年 (2040年)
市全体	人口	(平成27年) 35,272人	29,206人	25,382人
	世帯	(平成27年) 12,585世帯	12,589世帯	12,628世帯
都市計画区域	人口	(平成27年) 28,539人	24,416人	21,499人
	世帯	(平成27年) 10,517世帯	10,613世帯	10,658世帯
用途地域	人口	(平成27年) 19,730人	17,611人	16,041人
	世帯	(平成27年) 7,666世帯	8,057世帯	8,347世帯
製造品出荷額等		(平成27年) 1,236億円	1,312.3億円	1,353.5億円
年間商品販売額		(平成26年) 790億円	1,265.1億円	1,572.9億円
住居系市街地面積		(平成27年) 671.0ha	→	671.0ha 〔現状維持〕
工業系市街地面積		(平成27年) 229.9ha	→	262.0ha 〔増加〕
商業系市街地面積		(平成27年) 54.6ha	→	74.0ha 〔増加〕